



登録番号 第 24000 号
 性状 黄色水溶性液体
 有効期限 3 年
 毒性 普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）
 包装 20L缶 × 1

有効成分 カーバムナトリウム塩 33.0%

種類名 カーバムナトリウム塩液剤 殺虫剤分類 8F

■特長

1. 土壌病害・線虫・雑草に広範囲に効果を発揮します。
2. 製品は普通物相当で消防法上の危険物にも該当しません。
3. 刺激臭が少なく、安心して作業ができます。
4. 各種の使用方法があり、栽培作物によって適切な使用方法を選べます。
5. 専用注入機で処理作業が簡便にできます。



製品ページはこちら

■適用病害虫・雑草名及び使用方法

(2026年3月4日現在)

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量 (原液として)	使用時期	本剤及び カーバム ナトリウム塩 を含む農薬の 総使用回数	使用方法	
たまねぎ	苗立枯病(リゾクトニア菌)	80mL/m ²	は種又は 定植の 10日前まで	1回	所定量の薬液を積み上げた 土壌表面に散布し 直ちに被覆する。	
	乾腐病	60L/10a				AB
	黒腐菌核病 一年生雑草					A
にんにく	白絹病 乾腐病 一年生雑草	60L/10a	は種又は 定植の 15日前まで		AC	A 散布混和: 所定量の薬液を 土壌表面に散布し、 直ちに混和し被覆する。 B 希釈散布/灌水: 予め被覆した内で、 所定量の薬液を水で 希釈し土壌表面に 散布または灌水する。 C 注入: 所定量の薬液を土壌中 約15cmの深さに注入し 直ちに被覆または 覆土・鎮圧する。
	イモグサレセンチュウ				C	
かんしょ	ネコブセンチュウ 一年生雑草	40~60L /10a	は種又は 定植の 15日前まで		A	
	つる割病	60L/10a			C	
こんにゃく	根腐病	40~60L /10a	は種又は 定植の 15日前まで		AC	
	ネコブセンチュウ 一年生雑草	40L/10a			C	
	乾腐病	60L/10a			AC	
	乾性根腐病 一年生雑草			A		
さといも	ネグサレセンチュウ 一年生雑草	40L/10a	は種又は 定植の 15日前まで	C		
	乾腐病	60L/10a		A		
ばれいしょ	そうか病 一年生雑草	60L/10a	は種又は 定植の 15日前まで	C		
やまのいも	ネコブセンチュウ	40~60L /10a	は種又は 定植の 15日前まで	A		
	根腐病 一年生雑草	60L/10a		C		
かぶ	萎黄病 一年生雑草	40L/10a	は種又は 定植の 15日前まで	C		

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量 (原液として)	使用時期	本剤及び カーバム ナトリウム塩 を含む農薬の 総使用回数	使用方法
ごぼう	ネグサレセンチュウ 一年生雑草	40L/10a	は種又は 定植の 15日前まで	1回	C
しょうが	根茎腐敗病 一年生雑草	60L/10a			AB
	ネコブセンチュウ 一年生雑草				C
だいこん	ネグサレセンチュウ	40~60L /10a			AC
	バーティシリウム黒点病 一年生雑草				
にんじん	しみ腐病 ネコブセンチュウ 一年生雑草				
にら にら(花茎)	乾腐病 一年生雑草	60L/10a	AB		
	葉腐病		A		
	ネグサレセンチュウ 一年生雑草		C		
ねぎ わけぎ あさつき	白絹病 一年生雑草	40L/10a	は種又は 定植の 10日前まで		A
	黒腐菌核病	60L/10a		AC	
	根腐萎凋病 一年生雑草			B	
さやえんどう 実えんどう	萎凋病		60L/10a	1回	A
	苗立枯病(リゾクトニア菌) 一年生雑草				
きゅうり	苗立枯病(リゾクトニア菌)	40~60L /10a			ABC
	つる割病 一年生雑草		C		
	ネコブセンチュウ				
かぼちゃ	立枯病 一年生雑草	60L/10a	A		
すいか	ネコブセンチュウ 一年生雑草	40L/10a	は種又は 定植の 15日前まで		C
	つる割病 一年生雑草	60L/10a			AB
メロン	ネコブセンチュウ 一年生雑草	40L/10a	C		
	炭腐病 黒点根腐病	80L/10a	B		
トマト ミニトマト	萎凋病 一年生雑草	40~60L /10a	ABC		
	半身萎凋病 ネコブセンチュウ		AC		

A 散布混和:
所定量の薬液を
土壌表面に散布し、
直ちに混和し被覆する。

B 希釈散布/灌水:
予め被覆した内で、
所定量の薬液を水で
希釈し土壌表面に
散布または灌水する。

C 注入:
所定量の薬液を土壌中
約15cmの深さに注入し
直ちに被覆または
覆土・鎮圧する。

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量 (原液として)	使用時期	本剤及び カーバム ナトリウム塩 を含む農薬の 総使用回数	使用方法
なす	半身萎凋病	60L/10a	は種又は 定植の 15日前まで	1回	A
	ネコブセンチュウ	40~60L /10a			C
	一年生雑草	40L/10a			A
	苗立枯病(リゾクトニア菌) 一年生雑草	60L/10a			B
	半枯病				A
ピーマン とうがらし類	苗立枯病(リゾクトニア菌) 一年生雑草	60L/10a			A
	萎凋病	40~60L /10a			AB
	半身萎凋病				C
	ネコブセンチュウ 一年生雑草	40~60L /10a			A
ブロッコリー	ネコブセンチュウ	60L/10a			は種又は 定植の 10日前まで
	一年生雑草		A		
	根こぶ病	60L/10a	AC		
チンゲンサイ	ネコブセンチュウ	40L/10a	は種又は 定植の 10日前まで	1回	C
	萎黄病	60L/10a			A
みずな	苗立枯病(リゾクトニア菌)	60L/10a	は種又は 定植の 15日前まで	1回	AC
	一年生雑草				A
キャベツ	バーティシリウム萎凋病	40~60L /10a	は種又は 定植の 15日前まで	1回	C
	根こぶ病 一年生雑草				AC
はくさい	根こぶ病 根くびれ病 黄化病 一年生雑草	40~60L /10a	は種又は 定植の 10日前まで	1回	A
レタス 非結球レタス	ネグサレセンチュウ 一年生雑草	40~60L /10a			C
	根腐病	60L/10a			A
	ビッグバイン病 すそ枯病 一年生雑草				
ほうれんそう	株腐病 立枯病 ハウレンソウケナガコナダニ 一年生雑草	60L/10a			BC
	萎凋病 一年生雑草	は種又は 定植の 15日前まで	ABC		
いちご	萎黄病 一年生雑草	は種又は 定植の 15日前まで	1回	1回	C
	ネグサレセンチュウ				

A 散布混和:
所定量の薬液を
土壌表面に散布し、
直ちに混和し被覆する。

B 希釈散布/灌水:
予め被覆した内で、
所定量の薬液を水で
希釈し土壌表面に
散布または灌水する。

C 注入:
所定量の薬液を土壌中
約15cmの深さに注入し
直ちに被覆または
覆土・鎮圧する。

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量 (原液として)	使用時期	本剤及び カーバム ナトリウム塩 を含む農薬の 総使用回数	使用方法
みょうが(茎葉) みょうが(花穂)	根茎腐敗病 一年生雑草	60L/10a	は種又は 定植の 15日前まで	1回	AB
おけら とうき	一年生雑草				A
しゃくやく(薬用)	根黒斑病				C
花き類・観葉植物	フザリウム菌による病害 (萎凋病、萎黄病、 球根腐敗病、腐敗病、 葉枯病、立枯病、乾腐病)				AB
	リゾクトニア菌による病害 (苗立枯病、茎腐病、 葉腐病、腰折病、株腐病、 立枯病)	A			
	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ 一年生雑草	40~60L /10a	C		
たばこ	ネコブセンチュウ	40L/10a	秋期 (翌春植付け)	1回	A
	立枯病	60L/10a			A

作物名	使用目的	使用量 (原液として)	使用時期	本剤及び カーバム ナトリウム塩 を含む農薬の 総使用回数	使用方法
にら にら(花茎)	前作のにら又は にら(花茎)の ネダニ蔓延防止	60L/10a	前作の 栽培終了後から は種又は 定植の 10日前まで	1回	AB
	前作のにら又は にら(花茎)の 古株枯死				ABC

作物名	使用目的	使用量 (原液として)	使用時期	本剤及び カーバム ナトリウム塩 を含む農薬の 総使用回数	使用方法	
トマト ミニトマト いちご ピーマン とうがらし類 きゅうり すいか メロン かぼちゃ なす ほうれんそう はくさい ねぎ わけぎ あさつき チンゲンサイ みずな レタス 非結球レタス だいこん キャベツ ブロッコリー にんじん たまねぎ にんにく さやえんどう 実えんどう ズッキーニ かんしょ 花き類・観葉植物	前作のトマト又は ミニトマトのすずかび病 蔓延防止	40~60L /10a	前作の栽培終了後 から残渣撤去まで 但し、は種又は 定植の15日前まで	1回	所定量の薬液を水で希釈し 土壌表面に散布または灌水する。	
	前作の野菜類又は花き類・観葉植物 の古株枯死					60L/10a
	前作のいちごの ネグサレセンチュウ 蔓延防止	40~60L /10a			所定量の薬液を水で希釈し 土壌表面に散布または灌水する。	
	前作のトマト、ミニトマト、 ピーマン、とうがらし類 又はきゅうりの ネコブセンチュウ蔓延防止					60L/10a
	前作のトマト又は ミニトマトの コナジラミ類蔓延防止	60L/10a			所定量の薬液を水で希釈し 土壌表面に散布または灌水する。	
	前作のトマトの ハクサイダニ蔓延防止					40~60L /10a
	前作のきゅうりの ホモプシス根腐病蔓延防止	60L/10a			所定量の薬液を水で希釈し 土壌表面に散布または灌水する。	
	前作のきゅうりのコナジラミ類 蔓延防止					40~60L /10a
	前作の野菜類又は 花き類・観葉植物の アザミウマ類蔓延防止	60L/10a			所定量の薬液を水で希釈し 土壌表面に散布または灌水する。	
	前作のなすの フザリウム立枯病の蔓延防止					40~60L /10a
	前作のきゅうりの 褐斑病の蔓延防止	60L/10a			所定量の薬液を水で希釈し 土壌表面に散布または灌水する。	
	前作のきゅうりの つる枯病蔓延防止					40~60L /10a
	前作のトルコギキョウの 斑点病蔓延防止	40mL/m ²			集積後から は種又は 定植の15日前まで	
	前作のにんにくの イモグサレセンチュウ 蔓延防止					40~60L /10a
前作のねぎの 作物残渣に寄生した クロバネキノコバエ類 蔓延防止	60L/10a	前作の栽培終了後 から植付の 15日前まで	所定量の薬液を 土壌表面に散布し混和する。			
ほうれんそう				前作のほうれんそうの ハウレンソウケナガコナダニ 蔓延防止	60L/10a	前作の栽培終了後 から植付の 15日前まで
かんしょ	次作の基腐病の発病抑制					

効果・薬害などの注意

1. 土壌くん蒸処理を行う場合は、次のことを守ってください。
 - (1) 本剤を使用する場合は、耕起整地した後に処理してください。特に粘土質土壌や大きな土塊が残っている場合には、効果が劣るのでいねいに実施してください。
 - (2) 本剤を使用する場合は、土壌が乾燥しているとガスが抜けやすく、効果が出ない場合があるので、注意してください。土を軽く握って放すと割れ目ができる程度の水分含量が適切です。それ以上に乾燥している場合は散水して水分含量を調整してください。
 - (3) 本剤を使用する場合は、重粘土質の土壌や降雨などで土壌水分が多い場合や秋冬期など平均地温が 10℃以下になる場合等の残留が懸念される場合は被覆期間を延長するか、ガス抜き耕起を十分にしてください。
 - (4) 本剤を施設で使用する場合は、施設内に作物がある場合または仕切りが不十分な連棟ハウスで暖房機の使用時には薬害のおそれがあるので使用しないでください。
 - (5) 本剤を注入、散布混和、灌水又は土壌表面散布の各処理方法で使用する場合は以下のことに注意してください。
 - (イ) 本剤を土壌注入する場合は、注入間隔を出来るだけ狭くするようにしてください。注入後は直ちに覆土・鎮圧する又は農業用被覆資材等で被覆する作業体系で実施してください。
 - (ロ) 本剤を土壌に散布混和する場合は、処理後直ちに農業用被覆資材等で被覆する作業体系で実施してください。その際、所定薬量を水で3倍程度に希釈して散布するとほ場に均一に散布できます。
また寒冷地で根雪前に使用する場合は、処理後は覆土・鎮圧でも問題ありません。
 - (ハ) 本剤を土耕栽培や養液栽培(土壌・培地)等で灌水処理する場合は次のことを守ってください。
 - ① 処理前のほ場は過剰散水による過湿はさけてください。
 - ② 使用する灌水チューブは水平型又は点滴チューブ等を使用し、設置する灌水チューブ間隔は 30 ~ 50cm 程度にしてください。灌水前に灌水チューブ等の灌水設備は農業用被覆資材等であらかじめ被覆し、処理前に灌水設備の点検を行なってください。
 - ③ 灌水チューブへの薬剤送入には液肥混入器を用いるか、貯水用タンクに水希釈液を入れ灌水ポンプにより送水してください。
 - ④ 所定薬量を水希釈液として灌水処理した後、直ちに 1mm の降雨程度の後灌水をしてください。
 - ⑤ 水希釈割合は次を一応の目安とし、ほ場土壌水分状態を考慮して適宜増減してください。
 - ・ほうれんそう、きゅうり、すいか、トマト、ミニトマト、いちご、さやえんどう、実えんどう、たまねぎ、ねぎ、あさつき、わけぎ、なす、ピーマン、とうがらし類、メロン、花き類・観葉植物の場合は、100 倍程度を目安としてください。
 - ・しょうが、みょうが(花穂・茎葉)、にら、にら(花茎)に使用する場合は、30 ~ 100 倍程度の範囲より選択してください。
 - ⑥ 液肥との混用はさけてください。
 - ⑦ クロルピクリンとの混用はさけてください。
 - ⑧ あらかじめ被覆した内で土壌表面散布する場合は、被覆期間は 7 ~ 21 日間とし、被覆除去後の 3 日間以上経過してから、は種または定植してください。
 - (ニ) たまねぎ苗床土に土壌表面散布する場合には、所定薬量を水で 5 ~ 20 倍程度に希釈し、15 ~ 20cm の高さに積み上げた土壌表面に均一に散布し、農業用被覆資材等で被覆してください。
 - (ホ) おけら、とうきの春植え低温期に使用する場合は、薬害を生じる場合があるので、ガス抜き耕起を十分に行ってください。
 - (6) 土壌病害、センチュウ類防除および雑草防除目的で使用した場合、本剤の処理後は、被覆資材等で 7 ~ 14 日間被覆した後、被覆除去後さらに 3 日間以上経過してから、は種または定植してください。注入処理した後に覆土・鎮圧した場合は 10 ~ 24 日間経過してから、は種または定植してください。
 - (7) 花き類・観葉植物に使用する場合は、本剤はフザリウム菌及びリゾクトニア菌による病害に対し効果があり、同じ病名であっても病原菌が異なるものもあるので注意してください。
 - (8) かんしょ、きく等挿し苗で定植する作物に本剤を使用する場合は、薬害を生じるおそれがあるので、被覆期間を延長するか、ガス抜き耕起を十分にしてください。

2. 古株枯死、病害虫蔓延防止目的で栽培終了後に使用する場合は、次のことを守ってください。
 - (1) 前作の野菜類、花き類・観葉植物の栽培終了後または集積した寄生収獲残渣物に使用してください。
 - (2) 使用方法を土耕栽培や養液栽培(土壌・培地)等で灌水処理を行う場合は次のことを守ってください。
 - (ア) 水希釈割合は次を一応の目安とし、ほ場土壌水分状態を考慮して適宜増減してください。
 - ① 野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死目的で使用する場合は、30～100倍程度を目安としてください。
 - ② 病害虫蔓延防止目的で使用する場合は、30～100倍程度を目安としてください。
 - ③ センチュウ類蔓延防止目的で使用する場合は、100倍程度を目安としてください。
 - ④ 但し低温期(11月～1月)に古株枯死、病害虫蔓延防止の目的で使用する場合は、20～30倍程度を目安としてください。
 - ⑤ いら、いら(花茎)に使用する場合は、30～100倍程度を目安としてください。
 - ⑥ 必要量を分注して使いきってください。
 - (イ) 野菜類又は花き類・観葉植物などの古株枯死、病害虫蔓延防止目的であらかじめ被覆した内で灌水処理する場合の被覆期間は3日間(25℃以上)～7日間(10℃)を目安とし、その後ハウスを開放してください。
 - (ウ) きゅうり、なすの病害虫蔓延防止目的で灌水処理する場合は、被覆はあらかじめ除去して行い、処理中ハウスは3日間密閉してください。
 - (エ) 本剤使用後の次作物のは種または定植は21～28日間以降を一応の目安としますが、処理後の天候・気温等を考慮して期間を延長するか、ガス抜き耕起作業を十分行ってください。
 - (3) 使用方法を散布または散布混和处理で行う場合は次のことを守ってください。
 - (ア) 散布は原液または水5倍程度の希釈液を目安としジョウロなどで散布すると均一に処理できます。
 - (イ) ほうれんそう害虫蔓延防止目的で処理する場合はほ場土壌は握って崩れる程度のやや乾燥気味で行ってください。ほ場土壌水分が高い場合は次作のは種は10日間以上に延長してください。
 - (ウ) ねぎの寄生収獲残渣集積物に散布処理する場合の被覆期間は3～7日間を目安としてください。
 - (エ) かんしょの次作の基腐病発病抑制及びにんにくのイモグサレセンチュウ蔓延防止の目的で使用する場合は、原液または水で3倍程度に希釈して土壌表面に散布し直ちにロータリー等で混和し、直ちに鎮圧又は農業用被覆資材等で被覆する作業体系で実施してください。
 - (4) 使用方法を注入で行う場合はいら栽培終了後の畝株元周辺に注入してください。
 - (5) 薬剤処理前後に被覆又は覆土・鎮圧せずに使用する場合は、ビニールハウス等の施設内で行ってください。
3. 灌水装置を使用して薬剤処理を行う場合は、灌水装置のトラブル防止のため、使用前に灌水装置の点検を行い、灌水チューブの裂け、配管ジョイントの抜け、薬剤注入器(液肥混入器)の不具合などが無いことを十分に確認してください。
4. 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意してください。特に適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
5. 本剤使用後の器具の金属部分は腐食される場合があるので、十分水洗してください。
6. クロルピクリン、D-D及び両者の混合剤とは化学反応をおこし、発熱するまたは沈殿を生じ器具の孔詰まりを生じる場合があるので、これらの剤とは混合して使用しないでください。またクロルピクリン、D-D及び両者の混合剤を使用した器具は灯油等で十分に洗い、乾燥して本剤を使用してください。また本剤を使用した後は、器具は必ず水洗し乾燥した後に使用してください。本剤が器具中に残っていると、これらの他剤を加えることのないように注意してください。

安全使用上の注意

7. 誤飲などのないよう注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
8. 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
9. 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落としてください。

10. 本剤を使用する際(被覆作業を含む)は、吸収缶(活性炭入り)付き全面面体防護マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用してください。被覆を除去する際は、吸収缶(活性炭入り)付き全面面体防護マスクなどを着用してください。ただし、以下の場合、農薬用マスク、保護メガネ、不浸透性手袋、ゴム長靴、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。なお、眼刺激又は刺激臭を感じた場合には、直ちに吸収缶(活性炭入り)付き全面面体防護マスクを着用してください。
- (1) 風通しのよい場所での薬剤の希釈作業
 - (2) 薬剤処理と同時に覆土・鎮圧または被覆する機能を備えた土壤消毒機を使用する場合
 - (3) 灌水装置を用いた薬剤処理のために、密閉されたハウスの外部に設置された薬剤注入器(液肥混入器)を取扱う場合
11. ハウス等の施設内で薬剤処理する際は、次のことを守ってください。
- (1) 作業者がハウス内に入って薬剤処理する場合は、出入口、天窓、側窓等を開け通気をよくして作業を行ってください。作業後は直ちにハウスを密閉してください。
 - (2) ハウスの外部に設置された薬剤注入器(液肥混入器)を用いて薬剤処理する場合は、ハウスを密閉してから薬剤処理を行ってください。
 - (3) くん蒸中は、原則、ハウス内に立ち入らないでください。
 - (4) ハウス内に設置された薬剤注入器(液肥混入器)を用いて灌水装置による薬剤処理を行う場合は、薬剤処理終了後に灌水装置を停止させるためにくん蒸中のハウス内に立ち入る際ガス濃度が上昇しているため、吸収缶(活性炭入り)付き全面面体防護マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用し、速やかに作業を終えて退室してください。
 - (5) 灌水装置を用いた薬剤処理中に灌水チューブ裂けや配管ジョイント抜け等のトラブルによるやむを得ない事情でハウス内に立ち入る必要がある場合は、一旦、薬剤処理を中断し、吸収缶(活性炭入り)付き全面面体防護マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用し、ハウス側面、天窓などを開放して十分換気した後に入室してください。
 - (6) くん蒸後は、ハウス側面・天窓など開放して十分に換気した後に入室してください。
12. 作業に際してはガスに暴露しないよう風向き等を十分に考慮してください。
13. 作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
14. 作業時に着用していた衣服等は他のものと分けて洗濯してください。
15. かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
16. 住宅周辺での使用に当たっては、ガスによる危被害の発生防止に十分配慮してください。

● 水産動植物への影響

水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

● 保管上の注意

密閉し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼な場所に保管してください。

-
- 使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には、使用しないでください。
 - 小児の手の届く所には、置かないでください。●空容器・空袋はほ場などに放置せず、適切に処理してください。
-